



■ 目標

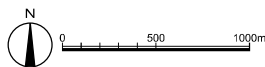
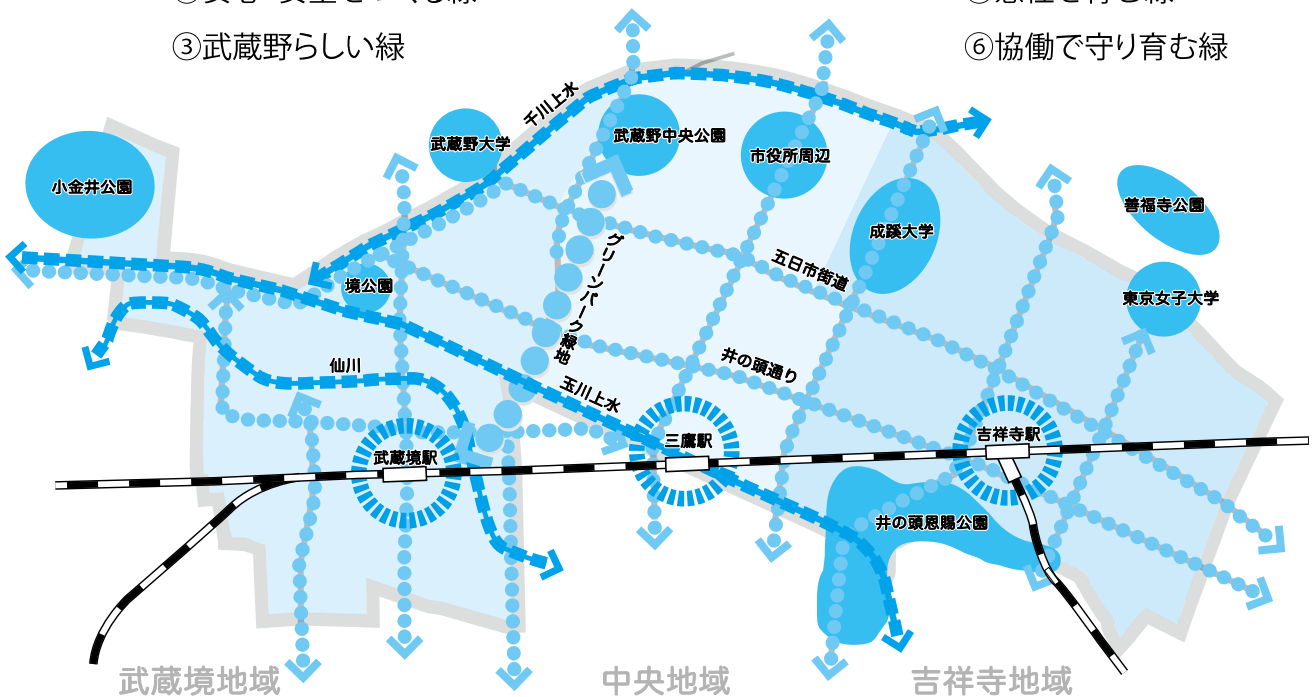
- 緑被率を長期目標の20年後平成39年(2027年)に現況の24%を26%に、将来目標として30%を目指します。
- 歩いて行くことのできる公園の整備率を長期目標の20年後平成39年(2027年)に現況の84%を92%に、将来目標30年超(平成49年超)として100%を目指します。

■ 将来像(緑の量、質ともに豊かな武蔵野市)

私たちが目指すべき緑の将来像は、緑の量が増えることではなく、武蔵野市らしさを実感できる質の高い緑が豊かであることです。この緑の将来像は、一人ひとりが「緑は市民の共有財産」という基本理念に立ち、東京都や周辺自治体と連携を深めつつ、緑を守り育てていくことで実現されると考えられます。

そこで量、質ともに豊かな武蔵野市を表わす緑を6つ掲げます。これらの緑が将来にわたり確保され、様々な役割を果たすことを目指します。

- ① 地球に優しい緑
- ② 安心・安全をつくる緑
- ③ 武蔵野らしい緑
- ④ 暮らしを彩る緑
- ⑤ 感性を育む緑
- ⑥ 協働で守り育む緑



<p>水と緑の軸 玉川上水、千川上水、仙川で構成される水辺と周辺の緑の空間</p>	<p>緑の拠点 環境形成、レクリエーション、防災等の機能を果たすまとまった緑の空間</p>
<p>緑の軸 街路樹や並木で構成される緑の空間</p>	<p>駅周辺の緑 緑のまちとしてふさわしい玄関口、駅周辺の商業地域の緑の空間</p>

しくみ編

■ 武蔵野市第4期緑化・環境市民委員会 最終提言要約

平成17年2月23日（最終提言まとめ）

1. 市全体の緑を開発から守り、増やす
2. 緑の育成管理の輪を広げる
3. 市民と市の協働運営の活動センターをつくる
4. エコロジカルネットワークをつくる
5. チャレンジ精神の研究開発でまちづくりを活性化

■ 緑化・環境市民委員会のあらまし

緑化市民委員会は、昭和46年に第1期が発足し昭和57年の第6期まで設置。昭和60年からは緑化・環境市民委員会として装いを新たにし、平成17年の第4期まで、通算10期におよび市民委員会が継続しています。

市民委員会を大きく特徴づける性格は、従来の諮問機関が、行政の示す原案を審議し、答申するものであるのに対して、委員会の自主的判断にもとづいて施策を検討し、計画を立て、市長に意見を述べることにあります。このことにより、計画された施策が市民参加によって、いきいきと展開する弾力的構造が可能です。

「歴代市民委員会」

（敬称略）

- ① 第1期緑化市民委員会（会長 松下圭一）
昭和46年9月1日～48年8月31日
- ② 第2期緑化市民委員会（会長 西尾 勝）
昭和48年10月1日～50年9月30日
- ③ 第3期緑化市民委員会（会長 田畑貞寿）
昭和50年10月1日～52年9月30日
- ④ 第4期緑化市民委員会（会長 西本晃二）
昭和53年1月14日～55年1月13日
- ⑤ 第5期緑化市民委員会（会長 野原三洋子）
昭和55年3月1日～57年2月28日
- ⑥ 第6期緑化市民委員会（会長 勝田有恒）
昭和57年5月8日～59年5月7日
- ⑦ 第1期緑化環境市民委員会（委員長 城戸 毅）
昭和60年10月12日～62年10月11日
- ⑧ 第2期緑化環境市民委員会（委員長 中里明彦）
平成元年12月25日～3年12月24日
- ⑨ 第3期緑化環境市民委員会（委員長 戸谷洋一郎）
平成4年9月14日～6年9月13日
- ⑩ 第4期緑化環境市民委員会（委員長 松木洋一）
平成15年3月3日～平成17年3月2日

■ 緑化（環境）市民委員会の主な提言・要望とその実施状況

- (1) 緑と花の課（昭和56年から緑化公園課）及び緑化機動隊（昭和47年4月）、緑化推進本部（昭和47年11月）の設置。〔①〕
- (2) 「武蔵野市民緑の憲章」（昭和48年4月）、「緑の日」の制定。緑と花の市民集会（現緑の週間行事）の開催。〔①〕
- (3) 玉川上水遊歩道計画についての検討と提言。〔①②③〕
- (4) 街路緑化等についての植樹選定委員会（昭和47年6月）の設置。街路緑化（街路樹・グリーンベルト）の推進。〔①②〕
- (5) 千川上水遊歩道計画についての検討と提言。〔①②③〕
- (6) 遊び場整備3か年計画（昭和49～51、昭和52～54、昭和55～57）策定に関する要望（公園倍增計画）〔①②③④〕
- (7) 農地等のオープンスペースの無償借用（借地公園制度）による遊び場（公園）、苗木畑の確保。〔①〕
- (8) 市民の木・市民の花制定（昭和52年・市制30周年）〔③〕
- (9) 五日市街道拡幅計画の計画案変更要望による千川上水遊歩道の確保。（1車線削除）〔②〕
- (10) 水道道路（井の頭通り）延長計画への変更要望による境浄水場シノキ並木の確保〔②〕
- (11) 市緑化実施計画（案）としての市民委員会活動プログラムの策定。〔①②③④⑤〕
- (12) 米軍施設跡地の公園化要望及び都立武蔵野中央公園に対する市民要望の取りまとめ。〔①②③④⑤⑥〕
- (13) 市民緑の散歩道の選定〔④〕
- (14) 「みどりの条例」（仮称）の制定の提言。恒久緑地の計画的確保のための意見書。〔⑤〕
- (15) 「武蔵野市における緑化問題の将来」（第6期緑化市民委員会提言）〔⑥〕
- (16) 「市の花・木・鳥」についての建議。野鳥の森買取要望。樹林確保のため山林地目税軽減要望。〔⑥〕
- (17) 「武蔵野市の緑を守るために」（第1期緑化環境市民委員会提言）〔⑦〕
- (18) 東部図書館（仮称）用地のケヤキ保存要望。都市計画道路1・3・4号（伏見通り）延伸による緑道保全要望。〔⑦〕
- (19) 総合体育館建設に伴う樹林の保護要望。中央公園の整備に関する市民委員会の見解。〔⑦〕
- (20) 「未来に残そういのちを育む豊かな緑」（第2期緑化・環境市民委員会提言）〔⑧〕
- (21) 「関前3丁目公園」（現関前公園）の設置プラン。…平成6年4月開園〔⑧〕
- (22) 「緑と対話できる町づくりをめざして」（第3期緑化・環境市民委員会提言）〔⑨〕
- (23) 「緑化基準」条例化〔⑧⑨〕
- (24) 具体的な落ち葉対策の検討。（落ち葉の感謝祭）
- (25) 「次世代へ生命の大切さを伝える緑のまちづくり」（第4期緑化・環境市民委員会提言）〔⑩〕
- (26) 自然環境センター（仮称）構想〔⑩〕

※〔 〕内の丸数字は「歴代市民委員会」を表す。



■ 緑のまちづくりレポーター

「緑のまちづくりレポーター」は21世紀に向けて緑豊かな武蔵野市を守り育てていくために、居住している町を中心とする緑に関する情報提供や、緑化行政への自主活動等を役割とし平成5年4月に発足し、平成19年4月の第7期をもって14年間の活動を終了しました。

■ 緑のまちづくりレポーター発足・活動の歩み

第1期	委嘱者数	50名	第2期	委嘱者数	50名
	任 期	平成5年4月15日～平成7年4月28日		任 期	平成7年4月29日～平成9年4月28日
	活動内容	・年4回のレポート提出 ・「地域の歴史コース」外4コース		活動内容	東町南町御殿山グループ外3グループ 地域ごとのテーマで活動、緑のかわら版作成 活動展の開催
第3期	委嘱者数	50名	第4期	委嘱者数	50名
	任 期	平成9年4月29日～平成11年4月28日		任 期	平成11年4月29日～平成13年4月28日
	活動内容	東町南町御殿山グループ外3グループ 地域ごとのテーマで活動、緑のかわら版の編集、 苗木配布、さし木づくりほか、活動展の開催		活動内容	地域別グループ活動（3グループ） テーマ別プロジェクト（緑の創作園ほか） 苗木配布、さし木づくりほか、活動展の開催
第5期	委嘱者数	49名	第6期	委嘱者数	42名
	任 期	平成13年4月29日～平成15年4月28日		任 期	平成15年4月29日～平成17年4月28日
	活動内容	吉祥寺・中央圏・武蔵境の3グループによる 各地域での活動 地域ごとのテーマで活動を行い、緑のかわ ら版の編集、落ち葉をテーマとした各プロ ジェクトによる活動を行う。 市民花壇への花の植付け、落ち葉の感謝祭 などを実施。		活動内容	吉祥寺・中央圏・武蔵境の3グループによる 各地域での活動 地域ごとのテーマで活動を行い、緑のかわ ら版の編集、落ち葉をテーマとした各プロ ジェクトによる活動を行う。 市民花壇への花の植付け、落ち葉の感謝祭 などを実施。
第7期	委嘱者数	45名（18年度2名辞退により解職し43名）	第7期	委嘱者数	45名（18年度2名辞退により解職し43名）
	任 期	平成17年4月29日～平成19年4月28日		任 期	平成17年4月29日～平成19年4月28日
	活動内容	吉祥寺・中央圏・武蔵境の3グループによる各地域での活動 地域ごとのテーマで活動を行い、緑のかわら版の編集、落ち葉をテ ーマとした各プロジェクトによる活動を行う。 市民花壇への花の植付け、公園の樹木への樹名版取り付け、落ち葉 の感謝祭などを実施。		活動内容	吉祥寺・中央圏・武蔵境の3グループによる各地域での活動 地域ごとのテーマで活動を行い、緑のかわら版の編集、落ち葉をテ ーマとした各プロジェクトによる活動を行う。 市民花壇への花の植付け、公園の樹木への樹名版取り付け、落ち葉 の感謝祭などを実施。



みどりのかわら版は、第2期のレポーター活動から開始し、第7期の12年間で150号を発行しました。

(H7.4～19.7
1～150号)

しくみ編

■緑の行事

緑のもつ重要性を広く市民に啓発し、緑化を推進することを目的に各種のイベントが開催されています。今後さらに市民やNPO団体が主体的に行う啓発事業が増えていくことが望まれます。

●全国都市緑化フェア



都市緑化意識の高揚や都市緑化に関する知識の普及等を図るため、第29回は平成24年度に東京都で開催され、武蔵野市は三鷹市と共に井の頭恩賜公園会場において共催しました。

●都市の緑を守るフォーラム



国、東京、近隣自治体間の連携による取り組みとして3回目に当たる平成19年度は武蔵野市で開催されました。(以降、平成24年度まで8回開催)

●緑の表彰・顕彰制度



緑の保護・育成に取り組み、地域に貢献している方々を、毎年様々なテーマで表彰する制度です。これまで接道部緑化やフォトコンテスト等を実施しました。

●「緑のカーテン」事業



夏場の電力使用の抑制、ヒートアイランド等の環境対策を向上するため、5月下旬頃、市民の皆さんに「緑のカーテン」用のゴーヤなどの苗を配布しています。

●ホテル観察会



身近に自然と触れ合い、ビオトープ事業や環境問題に関心と理解を深めてもらうため、毎年6月武蔵野自然観察園で実施しています。

●緑の市民講座



緑に対する関心を深めるとともに緑に関する知識及び技術を広く市民に普及するため、平成13年度から年4回実施しています。

●菊花展



毎年、10月下旬から11月上旬に市民の愛好団体「武蔵野千秋会」(平成25年度で52回目の展示会となります。)の作品を展示しています。

●さつき展



毎年、5月下旬から6月上旬に市民の愛好団体「武蔵野さつき会」(平成25年度で37回目の展示会となります。)の作品を展示しています。

●東洋蘭展示会



毎年、3月中旬から下旬に市民の愛好団体「武蔵野蘭友会」(平成25年度で31回目の展示会となります。)の作品を展示しています。

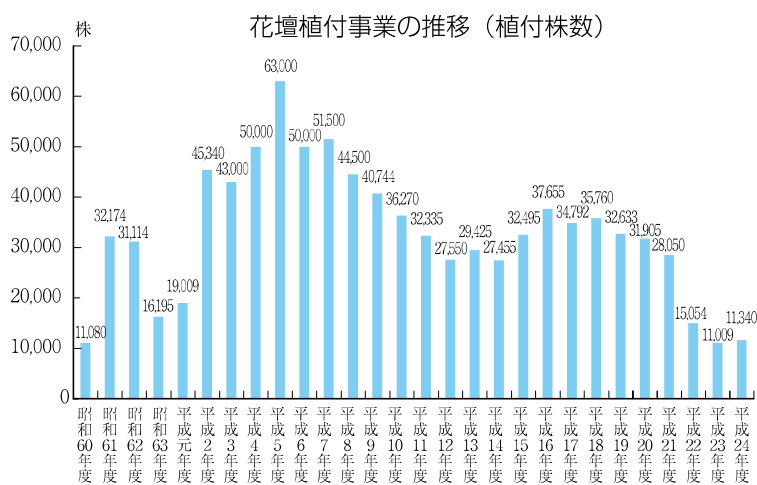
■その他の行事、過去に実施された行事

- 植樹祭…樹木草花などに親しむ機会として企業等の協力を得て実施しました。
- 落ち葉の感謝祭…都市の迷惑と考えられている落葉に焦点をあて、緑のまちづくりレポーターの活動の一環として平成18年度まで実施していました。(現在は実施していません)
- 緑の風景フォトコンテスト…市制施行60周年の記念行事として実施されました。応募総数は100点を超えました。



■ 花壇緑化

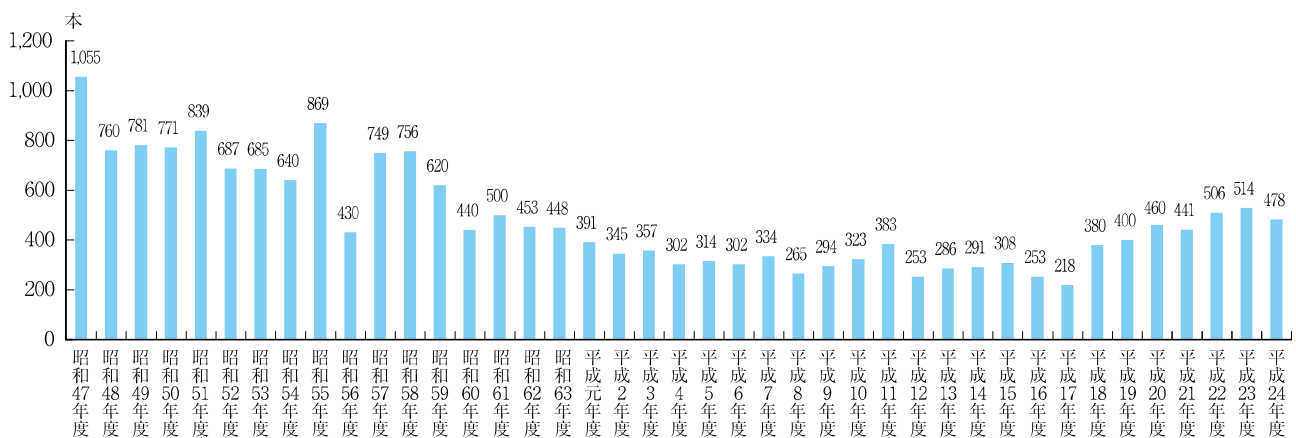
花があふれる「まち」を目指し、花壇への花の植付けは、子どもたちをはじめ市民団体、ボランティア等により、年2回(春・秋)行っています。公園内をはじめとする花壇は平成25年3月現在23か所あり、植付面積は約320㎡となっています。



■ 誕生記念樹の推移

昭和47年から子どもの誕生を記念して苗木を配布しています。

平成26年3月現在の配布樹種はオリーブ、ジュンベリー、パキラ、ブルーベリー、ベンジャミン、ユスラウメです。



■ 緑の募金

緑の募金は、東京緑化推進委員会の依頼を受け、武蔵野市では市内の公共施設や小中学校の協力を得て実施しています。皆様から寄せられる募金は、森林の整備や花粉の少ない森づくり運動、緑化推進、緑化普及啓発活動などに使われています。

しくみ編



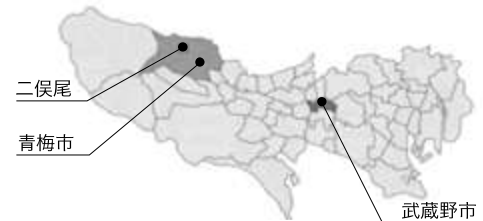
■「二俣尾・武蔵野市民の森」事業とは

森林は、表土の保全・水源のかん養・自然環境の保全・地球温暖化の防止など多面的な機能を有しています。

恩恵を受けている都市部の自治体として多摩地域の森林を荒廃から守り、公的機能をより一層活かすため適正な整備とともに武蔵野市民が自然とふれあい地元住民と相互交流を図るよう、山林所有者・(公財)東京都農林水産振興財団・武蔵野市が相互協力し、山林の一部を「二俣尾武蔵野市民の森」として、保全活用することを目的に協定を締結しています。このような森林を守り育てる仕組みを「フォレスト・ガーディアン(=森の番人・森を守る)制度と呼んでいます。



締結者	山林所有者・(公財)東京都農林水産振興財団・武蔵野市
区域	青梅市二俣尾4丁目1167番外 (第1期) 3.13ha(H21年度に0.2ha追加) (第2期) 7.02ha(森林整備区域4.09ha、利用啓発区域2.93ha)
期間	(第1期)平成13年8月6日から平成23年3月31日(10年間) (第2期)平成23年4月1日から平成28年3月31日(5年間)



■二俣尾・武蔵野市民の森での活動

二俣尾・武蔵野市民の森では、植栽・下刈・間伐・枝打等の、森を健全に育てるための森林整備作業を行う他、武蔵野市民が利用しやすい環境をつくるため、歩道新設・改修・刈払いや、集合広場等の整備も実施し、以下のような取組みを行っています。



森林整備啓発事業

二俣尾・武蔵野市民の森を拠点に自然観察会や間伐体験など、様々な自然体験イベントを実施しています。



土曜学校(森林体験教室)

小学生と中学生を対象に緑と環境を守り育むことを学び、自然体験することを、二俣尾の森の中で経験します。



森の市民講座

東京の森の現状を知り、「東京の森を守るため」に何が出来るかを考えていきます。また、多摩の森の素材でものづくりを実施しています。

森林整備啓発事業			土曜学校(森林体験教室)		森の市民講座	
年度	回数	内容	回数	人数	回数	内容
16	5	青梅丘陵ハイキングほか	8	初級78人、中級61人	5	つるを利用したリース作りほか
17	4	流しそうめんと竹細工ほか	8	初級81人、中級61人	4	杉の皮を使った小物入れ作りほか
18	4	青梅丘陵とキノコ鍋ほか	8	初級86人、中級74人	4	草木染め、しゃもじ作りほか
19	4	五感で楽しむ森林ウォーキングほか	8	初級88人、中級19人	4	つるを利用したクリスマスリース作りほか
20	4	緑の野外教室ほか	8	初級82人、中級20人	4	苔玉作り、草木染めほか
21	5	二俣尾の森と川で生き物観察ほか	8	初級89人、中級21人	4	キノコ駒打ち体験、クリスマスリース作りほか
22	5	森と緑の宿泊体験ほか	6	初級88人、中級23人	4	草木染め、武蔵野市民の森散策ほか
23	5	青梅丘陵・春の花観察会ほか	3	59人	4	多摩材を使ったしゃもじ作り、苔玉作りほか
24	5	青梅・霞丘陵自然観察ほか	3	79人	4	クリスマスリース作り、焼き芋体験、燻製作り体験ほか

■ 奥多摩・武蔵野の森事業とは

奥多摩町や青梅市西部などの多摩川上流では、ニホンジカの増加が問題になっています。

シカは、下草や苗木を好み、食糧不足になると地表植物までも食い尽くすため、山が裸地化したり、樹皮を剥いで食べたりして、木を枯らすこともあります。これに伴い、都の水ガメである水源地の土砂崩壊がおり、まさに「森の砂漠化」と言える被害が進行しています。

そこで、武蔵野市では、森林の公的機能回復のため、平成16年度より「奥多摩・武蔵野の森事業」として奥多摩町と（公財）東京都農林水産振興財団と相互協力し、シカ被害により裸地化した森林の整備に取り組んでいます。



荒れた様子



再生の様子

締結者	武蔵野市・奥多摩町 (公財)東京都農林水産振興財団
区域	東京都西多摩郡奥多摩町 字逆川644番1
期間	(第1期)平成16年から 平成25年の10年間 (第2期)平成26年から 平成30年の5年間
整備内容	(第1期) 苗木の植栽・保育管理・シカ 被害対策として柵設置・下草 刈り・測量等 (第2期) 防シカ柵の補修及び撤去・刈 払い・除伐・見回り管理・歩 道改修等

はなし の タネ

とうきょう森づくり貢献認証制度

東京都の「とうきょう森づくり貢献認証制度」において、武蔵野市が認証を受けました。この制度は、森林整備活動に関心のある企業や都民のみなさまの森づくり活動への参加と、多摩産材をより一層利用していただくことを目的として創設されたものです。

特に、森林整備サポートの分野では、地方自治体として唯一、本制度第1号の認定を受け、その取り組みが公的に評価されています。

認証年度	認証された制度	対象事業	認定された 二酸化炭素吸収量
平成24年度 (第1回)	森林整備サポート 認定制度	「二俣尾・武蔵野市民の森整備事業」	187.75t-CO ₂
	企業が実施・協賛した下刈り、除伐、間伐による二酸化炭素吸収量を東京都が認定		
平成24年度 (第2回)	什器による二酸化炭素 固定量認証制度	「第29回全国都市緑化フェアTOKYO」開催に伴い、修景の為に購入した多摩産材プランター100個（フェア閉会後も公園通り商店会の協力により吉祥寺通りに設置して活用）	1,190t-CO ₂
	多摩産材を用い、二酸化炭素固定量が認証された什器を購入した企業等を、東京都が貢献認証		

「二俣尾・武蔵野市民の森」自然体験館

森林活動の拠点として、平成18年7月に整備されました。間伐材やつるを利用した木工などを体験しながら、武蔵野市の森林保全の取り組みを学ぶことができます。

畳スペース、トイレ、シャワーも完備しています。

事前連絡、申込みにより施設、事業等のご案内を受付けています。



市民アンケート



■ 市政アンケート調査と緑への要求

市では、毎年全世帯を対象に「市政の中で重点的に進めてほしい施策」の調査を行っていましたが、平成21年度からは新たに「市の取り組みを特に評価できる施策」を調査項目に加えました。

「緑化推進・公園整備」に対する評価は毎年上位にランクされ高い評価をいただいています。

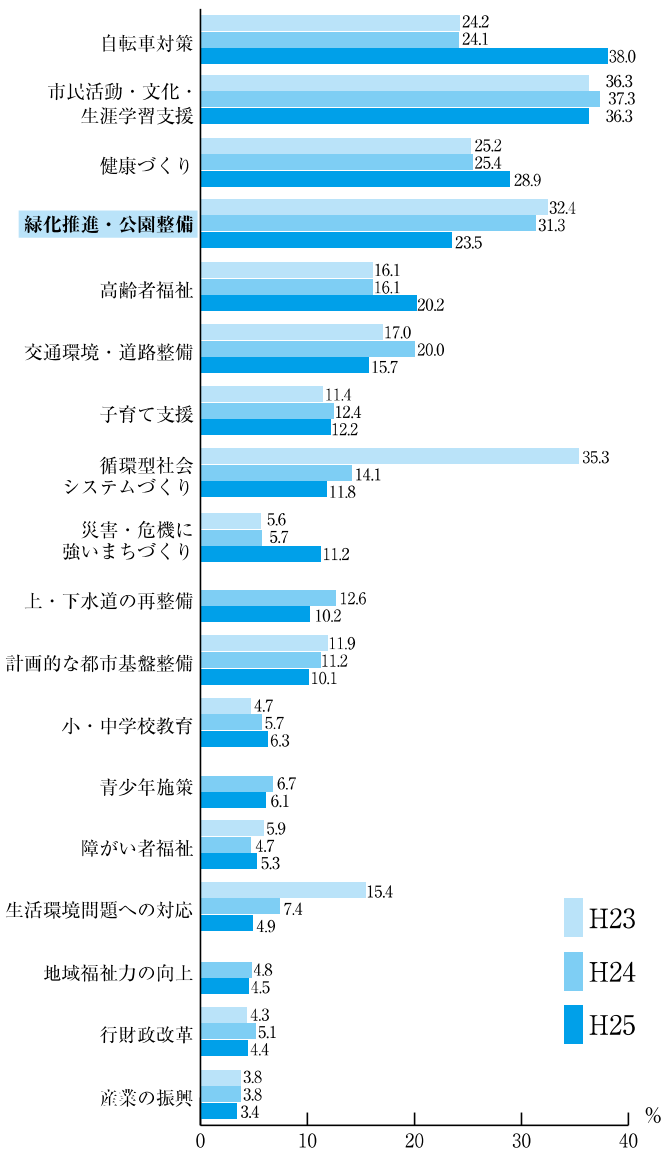
■ 武蔵野市民意識調査

昭和59(1984)年に第1回を実施して以降、4年の間隔で「武蔵野市民意識調査」を行っており、第8回となる調査は平成22年に行われました。

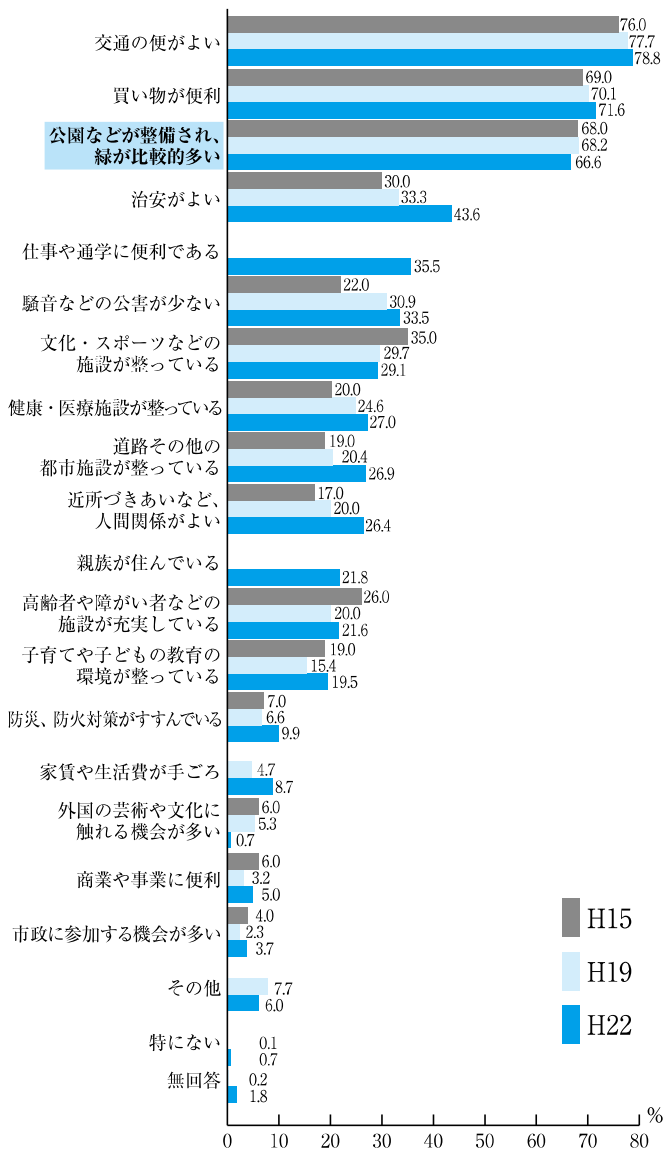
第7回から調査方法を郵便配布とし、調査員を介することなく無記名で回答するため、より率直な意見が現れていると考えられます。

緑や公園に関する項目はいずれの回も高い数字を示しており、武蔵野市の魅力の重要な要素となっていることがわかります。

■ 特に評価できる施策



■ 武蔵野市に住み続けたい理由



発行 平成26年 3月 初版発行
発行者 武蔵野市
東京都武蔵野市緑町2-2-28
編集 環境部 緑のまち推進課
印刷 プリンティングイン株式会社